

Abu Simbel – Rebirth on the Nile –
アブ・シンベル – ナイルへの復活 –

P.39

1972年にユネスコは世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約を導入した。

エミは、金閣寺が京都の彼女の自宅近くにあるため、世界遺産について知っている。

彼女は、他の世界遺産についてリサーチをすることにした。

彼女は、インターネットでこの情報を見つけた。

ナイルは世界でもっとも長い川である。

それは長さがおおよそ 6690 キロで、地中海に向って 9 カ国を通る。

何千年にもわたり、ナイルは農業や輸送にそれを必要としたエジプト人にとって重要であり続けている。

【文章構造：関係代名詞 who】

The Nile has been important to Egyptians who need it for farming and for transportation.

who 以降は前の Egyptians を具体的に説明している

ナイル沿いには、エジプトのもっとも有名な遺跡がある：

ピラミッド、スフィンクス、偉大なアブ・シンベル神殿である。

【Q1】

- ・ なぜナイルはエジプト人にとって重要であり続けているのですか？
- ・ Because it is important for farming and for transportation.
- ・ それは、農業と輸送のために重要であるから。

P.40

アブ・シンベル神殿は、紀元前 1250 年にエジプト王のラムセス 2 世によって建設された。

メインの神殿は、掛けのおよそ 60 メートル内側に建設された。

前には、王の 4 つの像があり、それぞれは 20 メートルの高さである。

王がナイルと広大な王国を見渡しているのである。

王の像の隣には、王女、息子、そして娘たちのより小さな像がある。

神殿は東を向いている。

毎年 2 回、朝の太陽が神殿の一番奥まで届く。

それは太陽神と王自身の像を照らす。

【Q2】

- ・ 毎年 2 回、朝の太陽は何を照らしますか？
- ・ It lights up statues of the sun gods and the king himself.
- ・ それは太陽神と王自身の像を照らす。

P.42

20 世紀半ば、エジプト政府は新しいダムを建設することを考えた。

彼らのしたかったことは、洪水をコントロールし、農業用の電気と水を供給することだった。

(What they wanted to do (彼らのしたかったこと)で文全体の主語となっている。)

(what+S+V) = 「～するもの、～すること」

しかしながら、問題があった。

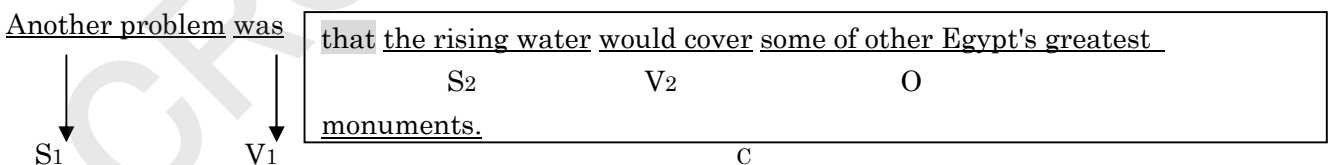
推移が上昇し、何百キロにもわたって谷に氾濫し、その暮らす多くの農家の人々が移動させられなければならないということが彼らにはわかっていた。

⇒living there が、直前の many farmers を修飾する形容詞の働きをしている。

「そこに住んでいる」⇒「農家の人々」という関係。このように、現在分詞の形で名詞を修飾する形容詞の働きをする場合がある。

別の問題は、上昇する水がエジプトの最も偉大な遺跡のいくつかを覆ってしまうということだった。

【文章構造：第 2 文型】



S + is + that~ = 「…は～ということだ」 that は接続詞で、後には<主語+動詞>が続く。

【Q3】

- ・ なぜエジプト政府は新しいダムを建設したかったのですか？
- ・ Because they wanted to control floods and provide electricity and water for farming.
- ・ 彼らは洪水をコントロールし、農業用の電気と水を供給したかったから。